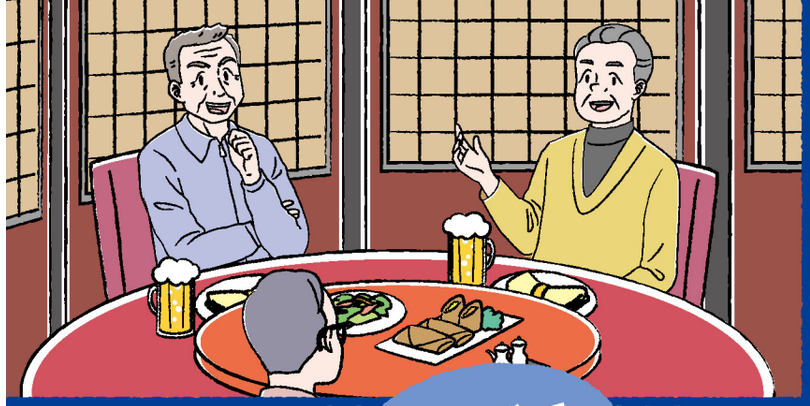
ノバルティス ファーマ株式会社

医療機関名

電話番号

PLU00003GK0002
2026年11月改訂





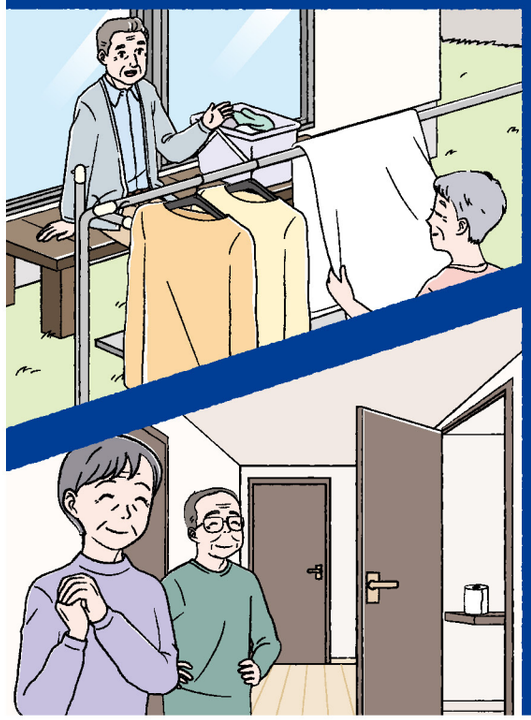
マンガでわかる

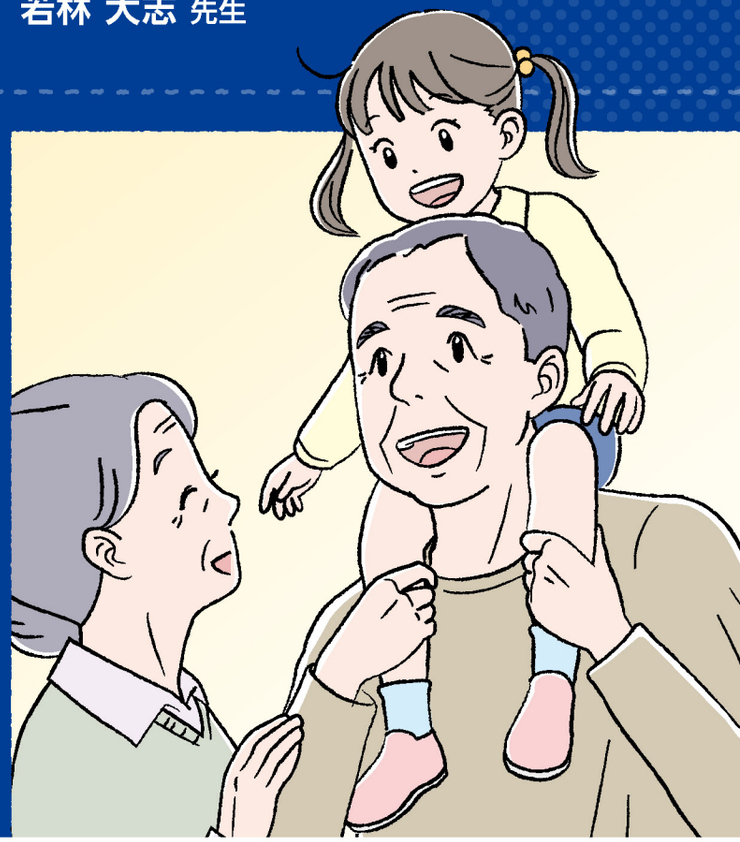
プルヴィクト®静注による治療を受ける
患者さんとご家族の方へ

プルヴィクトと生活

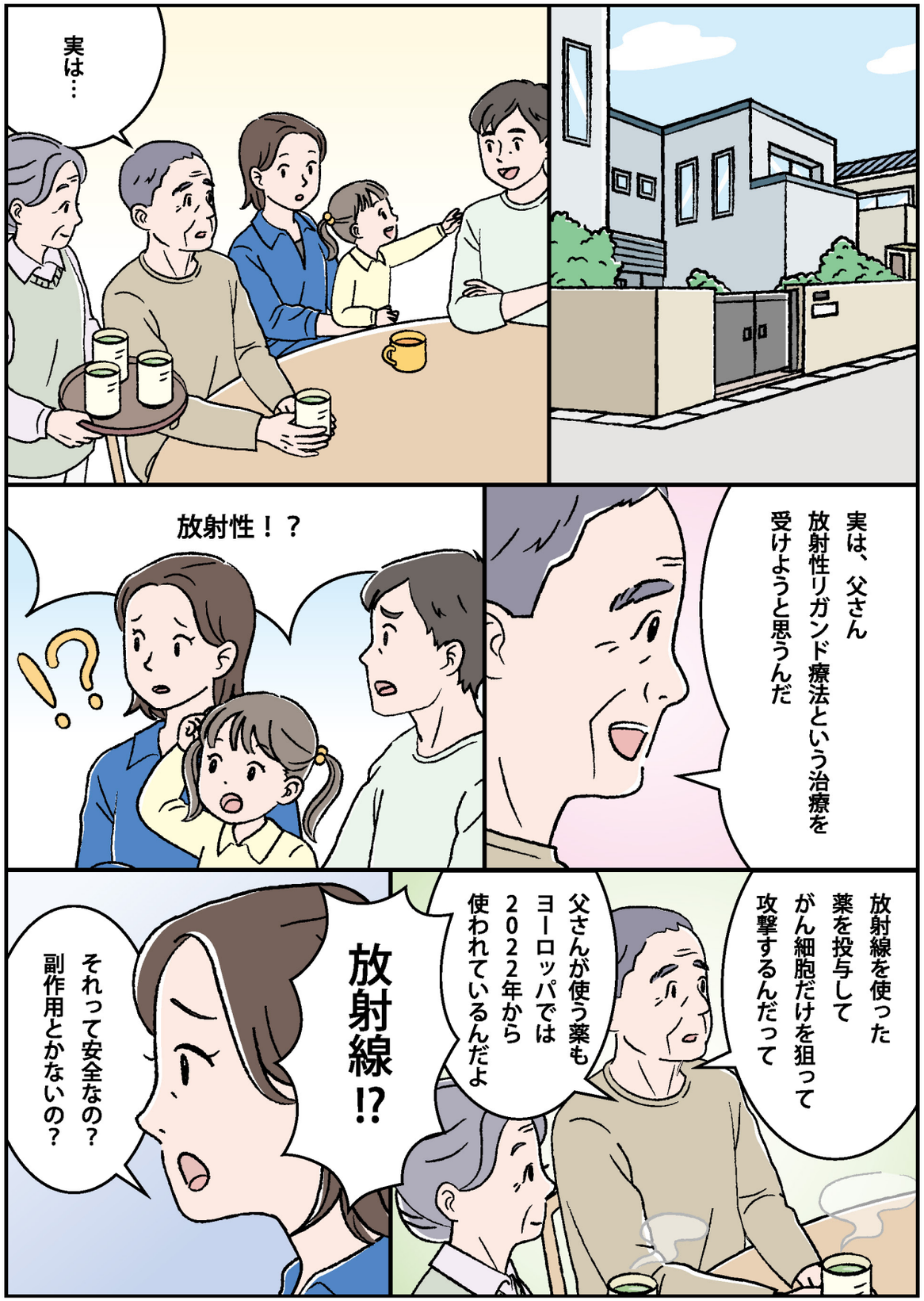
監修 金沢大学附属病院 核医学診療科 講師
若林 大志 先生







NOVARTIS

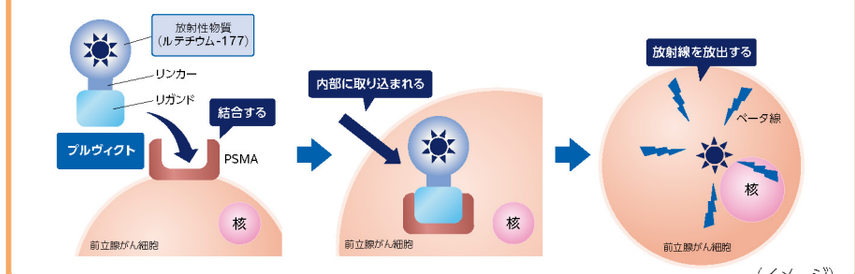


解 explanation 説 1

放射性リガンド療法ってなに?

プルヴィクト®静注は、PSMA陽性の遠隔転移を有する前立腺癌の患者さんを対象にした薬です。この薬は、患者さんの前立腺がん細胞に多く存在するPSMAというタンパクを狙い、がん細胞に結合して放射線を出します。
このように、体の中から放射線でがん細胞に攻撃する治療法のことを「放射性リガンド療法」といいます。

プルヴィクト®静注の作用機序

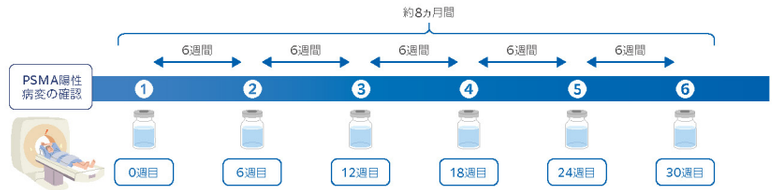


(イメージ)

「プルヴィクト®静注による治療を受ける患者さんとご家族の方へ」2026年11月、第二版より抜粋

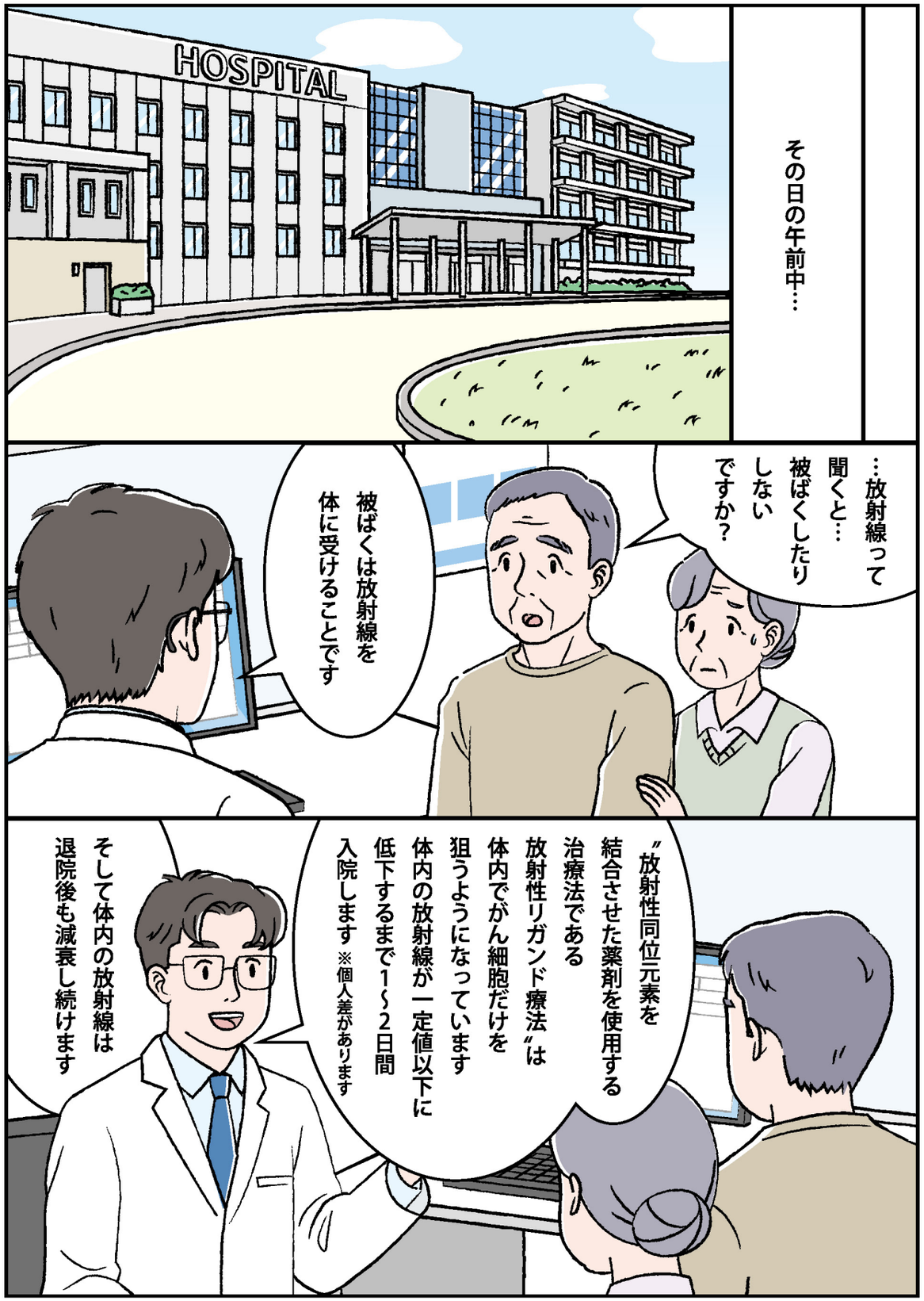
治療を始める前に、がん細胞にPSMAが多く存在することを検査で確認します。腎臓に障害のある方は、治療前に医師に相談してください。
PSMAの確認後は、6週間ごとに本剤の点滴や静脈注射を行い、最大6回投与します。全体の治療期間は約8カ月間です。

プルヴィクト®静注による治療全体のスケジュール



(イメージ)

「プルヴィクト®静注による治療を受ける患者さんとご家族の方へ」2026年11月、第二版より抜粋



※放射性同位元素:β(ベータ)線およびγ(ガンマ)線という放射線を出す物質

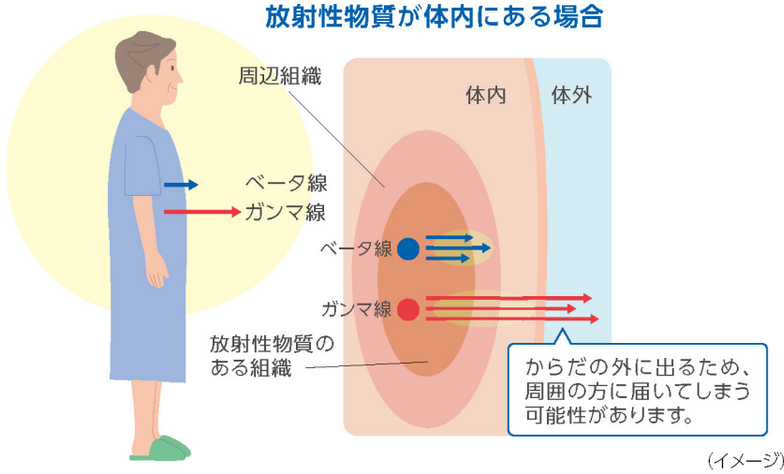
解 explanation 説 2

放射線って大丈夫なの？

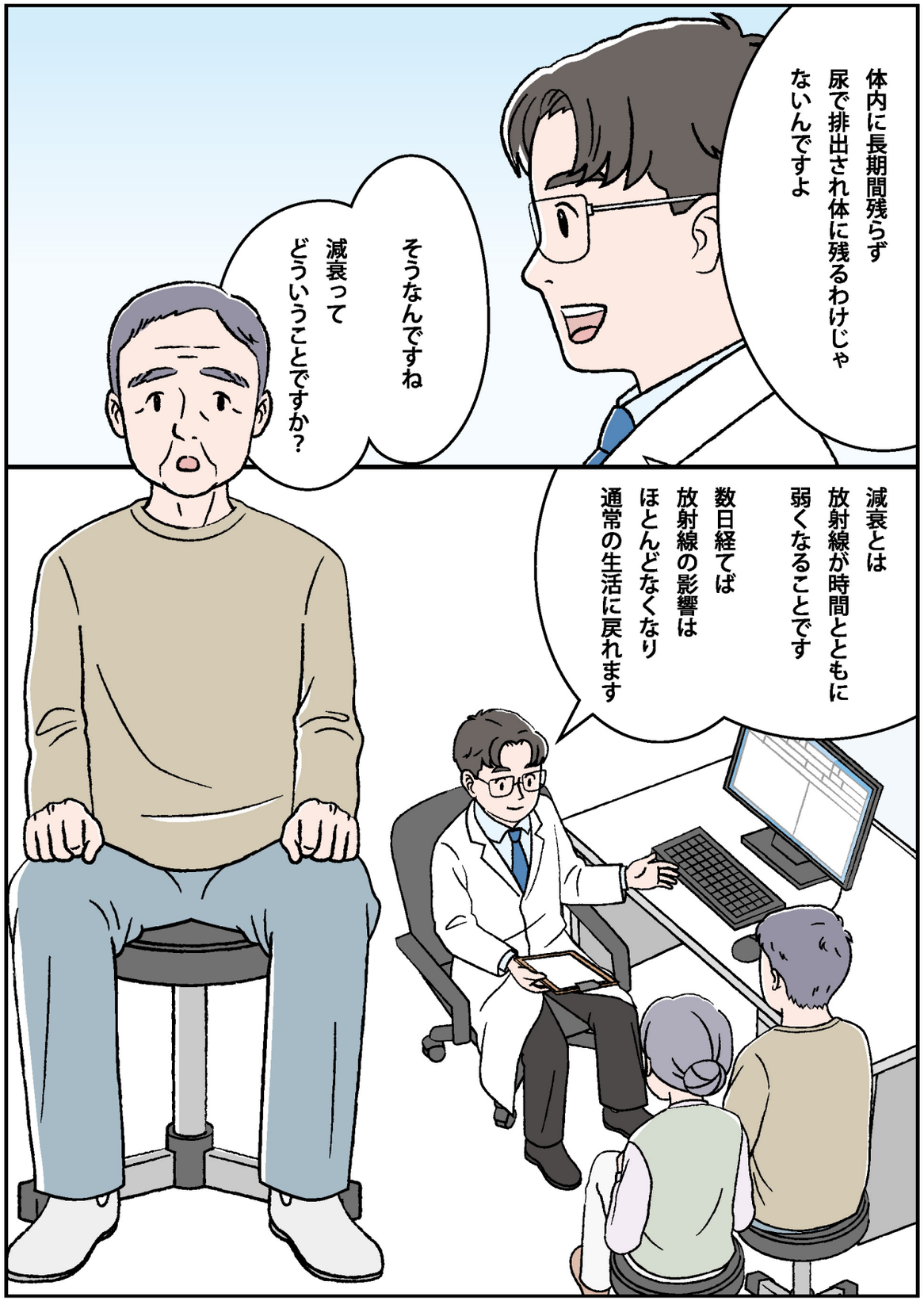
放射線とは、高いエネルギーをもち、通過する物質に影響を与える電磁波や粒子です。放射線を出す能力(放射能)をもつ物質を、放射性物質と呼びます。放射線治療と聞いて一般的にイメージされるのは、体の外から放射線を当てる方法(外部照射)かと思います。外部照射は、まっすぐ進む放射線の性質を利用しているため、がん細胞の通り道にある正常組織も放射線の影響を受けます。一方で、プルヴィクト®静注は点滴や静脈注射によって体内に取り込まれます。

本剤はがん細胞に集まる性質をもつため、治療による正常組織への影響が少なくなります。また、本剤に使われている放射性物質はβ線とγ線という放射線を出します。体内でβ線が届く距離は最大2.2mm(平均1mm 未満)と短いため、正常細胞への影響は少ないと考えられます。γ線が届く距離はβ線よりも長く、体の外に出てしまいます。周囲の方への影響を最小限に抑えるために、投与後7日間は適切な距離(1～2m)を保って過ごしましょう。

プルヴィクト®静注によるからだの中での放射線照射



「プルヴィクト®静注による治療を受ける患者さんとご家族の方へ」2026年11月、第二版より抜粋



解 explanation 説

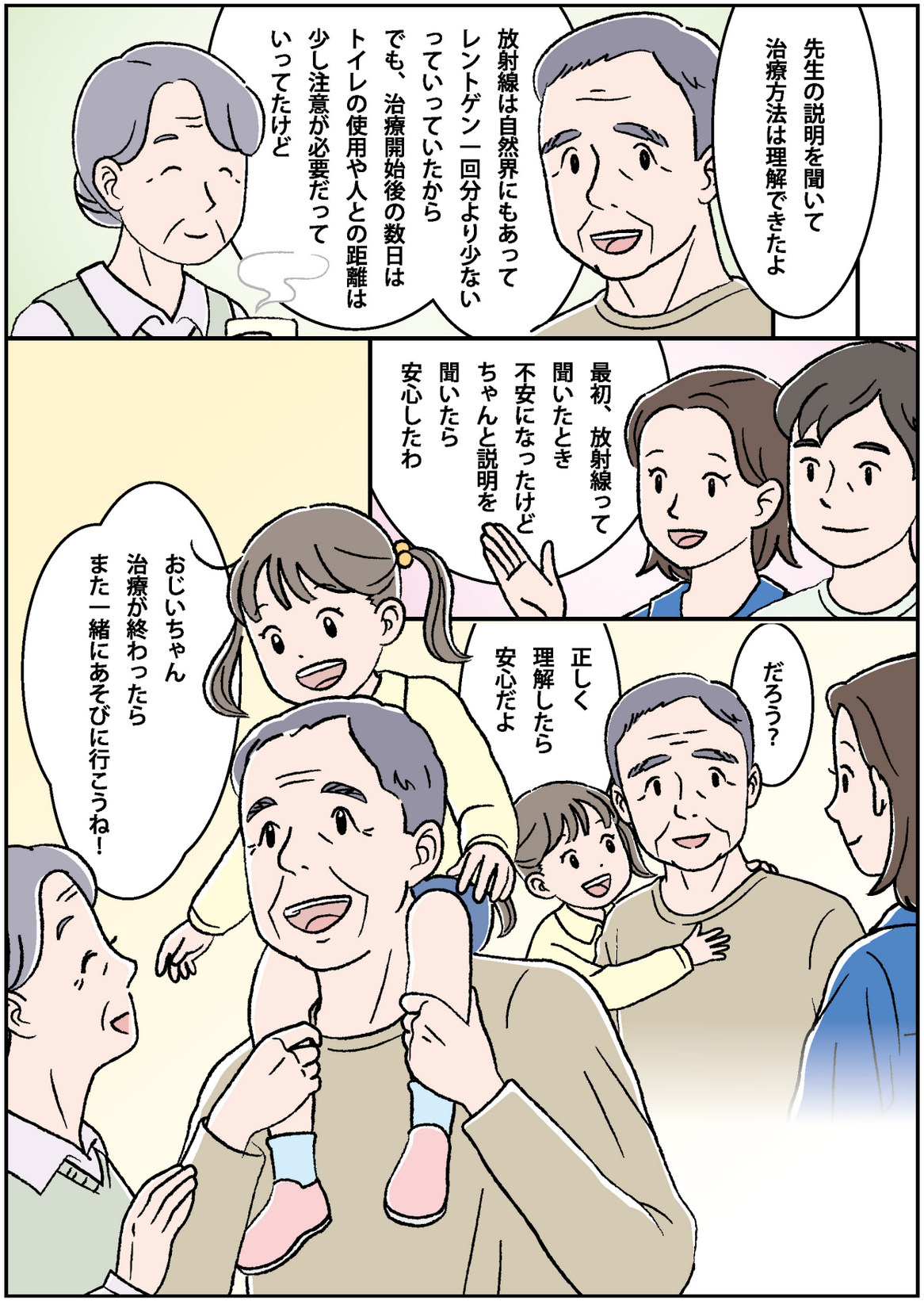
3

減衰ってどういうこと?

放射性物質が放出する放射線は、時間が経つにつれて減少します。放射能（放射線を出す能力）が弱まり、半分になるまでの時間を半減期といいます。半減期が経過するごとに、放射能は半分、また半分、そのまた半分と弱まります（減衰）。また、プルヴィクト®静注は主に尿として体外に排出され、血液中に長く残りません。そのため、患者さんの多くは1～2日で退院することができます。退院後の数日間は、いくつかの注意事項を守る必要がありますが、体から出る放射線量は日常生活に支障がない値に下がっています。



放射線と聞くと「周囲に迷惑をかけてしまうのでは」と不安になるかもしれませんが、大切なポイントさえ押さえれば、普段通りの生活ができます。
ご家族と一緒にマンガや冊子を読んで、安心して治療にのぞみましょう。

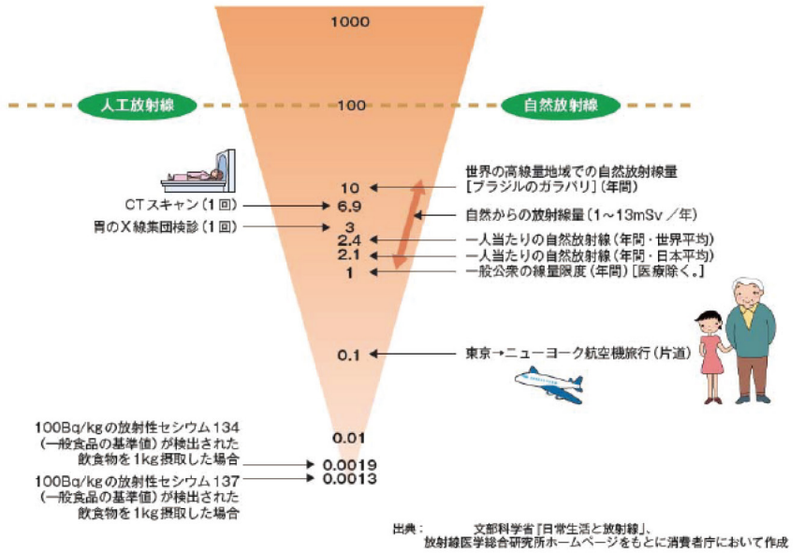


解 explanation 説
4

放射線量による体への影響はないの？

私たちの身の回りには自然に放射線が存在しており、常に放射線を受けています。プルヴィクト®静注の治療を受けた患者さんが基準を守って退院する場合、同居している方（介護をされる方）が受ける放射線量は、6回分の治療で約2mSv（ミリシーベルト）です。
これは胃のレントゲン検査1回分（3mSv）や、日本で自然環境から受ける放射線量1年間分（2.1mSv）よりも少ない量です。ただし、子供は大人よりも放射線の影響を受けやすいため、小さいお子さんや妊婦さん、授乳中の方が居るご家庭では、投与後7日間、患者さんとの触れ合いを最低限にしてください。

日常生活と放射線（単位：mSv（ミリシーベルト））



https://www.env.go.jp/content/900414212.pdf（閲覧日:2026.10.26）

Message

プルヴィクト治療を受けられる患者さんや周囲の方（家族や職場）に向けたメッセージ

「放射線の治療」と聞くと、「どんな治療なのだろう」と不安に感じる方もいらっしゃることでしょう。ご本人だけでなく、ご家族や周囲の方々にとっても、日常生活への影響が気になるところだと思います。

この冊子では、プルヴィクト治療後の過ごし方について、ご自宅での生活上の注意点、ご家族によるサポートの方法、周囲の方との接し方など、日常生活に役立つ実践的な内容を中心にまとめました。

ここでお伝えする注意点を守っていただければ、放射線による影響をしっかりと抑えることができます。放射線治療は決して怖いものではありません。

治療や日常生活において、ご不安なことがありましたら、どうぞ遠慮なく、担当の医師や看護師にご相談ください。

この冊子が、少しでも皆さまの安心につながり、前向きに治療へ取り組んでいただけるきっかけとなれば幸いです。

金沢大学附属病院 核医学診療科 講師　若林 大志

Comic

マンガがWebサイトで公開中!

Case 1 治療の基本情報編

正しい情報を知ることで、放射線治療への不安や疑問を軽減することができます。

ある昼下がり、主人公は集まった娘家族に「放射性リガンド療法」という治療を受けると伝えます。家族から口々に驚きや不安の声が上がる中、主人公は、主治医から受けた説明を語り始めます。はたして、主人公の説明で家族の不安は解消されるのでしょうか?



Case 2 人との会食編

適切な距離を保つことで、大切な人たちと食事を楽しむことができます。

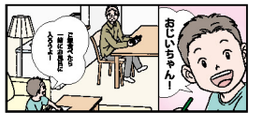
友人たちとの自然公園散策の計画で盛り上がる主人公。しかし、話題が食事のことに移ると、ふと表情が曇ります。治療を理由に食事を遠慮しようとする主人公に、友人がかけた言葉とは。主人公を前向きにさせる友人の提案とはどのようなものだったでしょうか?



Case 3 孫と入浴編

適切な対応をすれば、放射性リガンド療法を受けていてもご自宅で入浴が可能です。

退院した主人公は、幼い孫から「一緒にお風呂に入りたい」とお願いされます。けれども、妻は孫に「もう少し我慢してね」となだめます。「どうして?もう退院したのに!」と不思議がる孫に、主人公はどんな話をしたのでしょうか?



Case 4 治療中の働き方編

自分に合った働き方を見直すことで、治療中も仕事を続けられます。

夫婦でクリーニング店を営む主人公。治療が始まるにあたり、大好きな接客の仕事を諦めようとしていました。その悔しい気持ちを察した妻が、ある方法を提案します。接客の仕事を続けたいという想いを胸に、主人公が妻・スタッフと見つけた"自分らしい働き方"とは?



Case 5 洗濯物の仕分け編

簡単な家族間のルール・決まりごとを取り入れることで、放射性リガンド療法を受けながら、変わらない日常生活を送ることができます。

退院直後の主人公は、家族の洗濯物と自分の洗濯物をどう仕分けるか、妻と話し合います。退院後の生活について2人は、身近なもので工夫したシンプルな決まりごとを考えました。2人の工夫とはどのようなものだったのでしょうか?



Case 6 家族と物の共有編

家族での共有物も、正しい対処法を知ることで、汚染への不安を軽減できます。

退院した主人公は、自分が触れたドアノブやリモコンなどを通じて、放射性物質による汚染が家族に広がるのではないかと不安を抱いていました。しかし、「感染症と違い、物を通じて汚染されることはない」という医師の言葉を思い返し、ある簡単な対処法を実践しました。その具体的な対処法とは?



詳しくはこちら

プルヴィクトで治療を受ける患者さんとご家族の方へ

https://www.product.gan-kisho.novartis.co.jp/pluvicto/notes/manga/